



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社医療センター

日本赤十字社医療センター初期臨床研修プログラム

研 修 手 帳（別冊） 2022ver

プログラム名： _____

氏 名： _____

診療科別研修内容目次

1. 膠原病・アレルギー内科	2
2. 感染症科	3
3. 化学療法科	5
4. 血液内科	6
5. 呼吸器内科	7
6. 循環器内科	8
7. 消化器内科	10
8. 神経内科	11
9. 腎臓内科	12
10. 糖尿病内分泌科	13
11. 胃・食道外科	14
12. 肝胆膵・移植外科	15
13. 呼吸器外科	16
14. 小児外科	18
15. 心臓血管外科	19
16. 大腸肛門外科	20
17. 乳腺外科	22
18. 救急科	23
19. 麻酔科	26
20. メンタルヘルス科	28
21. 小児科	29
22. 産婦人科	31
23. 眼科	33
24. 緩和ケア科	35
25. 耳鼻咽喉科	36
26. 集中治療科	38
27. 新生児科	39
28. 整形外科	41
29. 脳神経外科	43
30. 泌尿器科	44
31. 皮膚科	45
32. 病理	47
33. 放射線科	49
34. 地域研修	51
35. 保健医療・行政	52

膠原病・アレルギー内科

【研修担当責任者】

部長 鈴木 毅

【指導医】

鈴木 毅

研修目標

膠原病、アレルギー疾患の病因・病態を把握し、その診断と治療方法を学ぶ

具体的研修目標

1. 膠原病、血管炎症候群、関節リウマチ、その他の類縁疾患の病態・診断・治療を理解する
2. 合併症治療（間質性肺炎、肺高血圧、感染症）について理解する
3. アレルギー疾患（好酸球増多症候群、アナフィラキシー等）について病態・診断・治療を理解する
4. 各種検査（血清学的検査、画像検査、生検、生理検査）の結果について評価し、説明できる
5. ステロイド治療、免疫抑制薬、生物学的製剤等の作用機序、副作用を理解し、治療を経験する

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	8:40 回診	8:40 回診	8:40 回診 9:00 チャート ラウンド 10:00 アレルギー外来	8:40 回診	8:40 回診
午後	16:40 ショートカンファレンス	16:40 ショートカンファレンス	16:00 関節エコー検査 16:40 ショートカンファレンス	16:00 抄読会 16:40 ショートカンファレンス	16:00 関節エコー検査 16:40 ショートカンファレンス

感染症科

【研修担当責任者】

部長 上田 晃弘

【指導医】

上田 晃弘

馬渡 桃子

研修目標

1. 感染症診療の原則を習得する
2. 院内感染対策の基本を習得する

具体的研修目標

1. 患者背景、感染臓器、起因微生物、抗菌薬、適切な経過観察を意識した感染症診療を行うことができる
2. 各診療科からのコンサルテーションに対し、感染症科医師の指導の下、各診療科担当医と連携して診療にあたることができる
3. 基本的な微生物学的検査（喀痰や尿などのグラム染色と培養検査、血液培養など）の結果について評価し、説明できる
4. 抗菌薬の適正使用について理解し、実践できる
5. ICT（感染対策チーム）の活動を通じて院内感染対策の基本を理解し、手指衛生をはじめとした標準予防策を率先して実践できる

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前		8 : 30* ICT ミーティ ング 10 : 30* ICT ラウンド 13 : 00 救急カンファ レンス			
午後			13 : 00* 抗菌薬・血液培 養ラウンド	14 : 00 ICU カンファ レンス 17 : 00* HIV チーム(月 1 回)	

*希望者

化学療法科

【研修担当責任者】

部長 國頭 英夫

【指導医】

宮本 信吾

研修目標

薬物治療を中心に内科的側面からがん治療を学ぶ

具体的研修目標

1. 固形癌薬物療法（化学療法・分子標的療法・免疫療法）の適応を判断し、適切な治療計画を立てることができる
2. 治療に伴う有害事象について理解し、治療目的・治療計画とともに患者に説明できる
3. がん患者に生じる様々な苦痛に対し、それらを緩和させる方法について知り、実践する

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前			緩和ケア抄読会（第2・第4）		サイバーナイフカンファ
午後	・ キャンサーボード（泌尿器、婦人科、大腸） ・ PCU 病棟カンファレンス	・ 肺がん関連抄読会 ・ キャンサーボード（肺） ・ 緩和ケアチームカンファレンス ・ PCU 病棟カンファレンス	化学療法科病棟患者カンファレンス	PCU 病棟カンファレンス	PCU 病棟カンファレンス

血液内科

【研修担当責任者】

部長 石田 禎夫

【指導医】

小倉 瑞生

研修目標

血液疾患の適切な診療を行うために、血液関連疾患の病態・診断・予後に関する基礎を習得する。

具体的研修目標

1. 各種貧血の鑑別診断ができる
2. 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、ALアミロイドーシス等の血液関連疾患の診断ができ、治療方針を理解する
3. 出血傾向、リンパ節腫脹、肝脾腫などの主要症候を理解する
4. 血液検査、染色体検査、細胞表面マーカー検査等の結果について評価し、説明できる
5. 骨髄穿刺・生検、リンパ節生検の適応と方法を理解し、その結果を説明できる
6. 抗腫瘍薬の作用機序と副作用を理解し、安全に投与できる
7. 輸血の適応、合併症を理解できる
8. 造血幹細胞移植の適応、合併症を理解する
9. 免疫療法（抗体、CAR-T等）の作用機序と副作用を理解する

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務	病棟業務	8:00 病棟カンファ	8:00 病棟回診	病棟業務
午後	病棟業務	16:00 移植カンファ	16:00 退院患者カンファ 抄読会	病棟業務	病棟業務

呼吸器内科

【研修担当責任者】

部長 出雲 雄大

【指導医】

出雲 雄大

猪俣 稔

久世 眞之

栗野 暢康

坂本 慶太

研修目標

1. 呼吸器疾患の病態・診断・治療について学び、的確な診断に基づき治療を行うことができる
2. 呼吸管理について学ぶ
3. 疾患だけでなく社会的背景を考慮したチーム医療が実践できる

具体的研修目標

1. 基本的身体診察法を実施し、記載できる
2. 呼吸器疾患の主要症候を理解する
3. 感染症、慢性気道疾患・アレルギー疾患、びまん性肺疾患、腫瘍性疾患を経験し、その病態・診断・治療について理解する
4. 呼吸器診療に関する血液・生化学検査、細菌学的検査、心電図、肺機能検査等の検査結果について理解し、説明できる
5. 胸部 X 線検査、CT 検査を理解し、所見を説明できる
6. 胸腔ドレーン挿入、中心静脈カテーテル挿入、胸腔穿刺、気管支鏡等の手技を実践・補助する
7. 酸素吸入、人工呼吸管理について理解し、適切な呼吸管理ができる

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務	病棟業務	研究ミーティング 病棟業務	気管支鏡検査 内科医局会 リハビリカンファレンス	病棟業務 呼吸器医局会
午後	病棟業務 気管支鏡カンファレンス 入院カンファレンス	病棟業務 肺がんサージボード	気管支鏡検査 病棟業務	入院カンファレンス 病棟回診	病棟業務

循環器内科

【研修担当責任者】

部長 池ノ内 浩

【指導医】

池ノ内 浩

魚住 博記

研修目標

循環器内科における基本的診療・技術を習得する

具体的研修目標

1. バイタルサイン、頸静脈の怒張（視診）、頸動脈の拍動（触診）、前胸壁の拍動（視診、触診）、心肺聴診、血管雑音の診察を行い、記述できる
2. 浮腫、動悸、胸痛、呼吸困難、血圧異常等の主要症候を理解し、鑑別診断することができる
3. 以下の検査方法の基本を理解し、結果を評価できる
 - 安静時 12 誘導心電図検査
 - 経胸壁心臓超音波
 - 運動負荷心電図検査
 - Holter 心電図検査
 - 胸部 X 線検査
 - 胸部 CT 検査
 - 胸部 MRI 検査
 - 心臓核医学検査
4. 除細動器を適切に使用できる
5. 心臓血管カテーテル検査に参加し、結果を解釈できる
6. 循環器系の薬物療法を正しく理解し、処方できる
7. 抗不整脈薬の概略を理解する
8. カテーテルアブレーション検査に参加し、流れを理解する

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	7:30 内科クリ ニカルカンフ ァレンス（第 2・第4） 8:15 病棟カン ファレンス 心臓カテーテ ル検査・治療	8:15 病棟カン ファレンス 8:30 病棟回診 10:00 症例検 討会 カテーテルア ブレーション	8:15 病棟カン ファレンス 負荷心筋シン チグラム	8:15 病棟カン ファレンス 負荷心筋シン チグラム 心臓カテーテ ル検査・治療	8:15 病棟カン ファレンス 8:30 抄読会 負荷心筋シン チグラム
午後	心臓カテーテ ル検査・治療	トレッドミル テスト カテーテルア ブレーション	トレッドミル テスト、カテー テルアブレー ション 17:15 心外合 同カンファレ ンス 18:00 勉強会	心臓カテーテ ル検査・治療	17:15 心外合同 カンファレン ス

消化器内科

【研修担当責任者】

部長 吉田 英雄

【指導医】

吉田 英雄

伊藤 由紀子

内野 康志

中司 峰生

研修目標

消化管、肝、胆膵の **major** な疾患の病態・診断・治療について学び、的確な診断に基づき治療を行うことができる

具体的研修目標

1. 消化器疾患を中心とした基本的身体診察法を実施し、記載できる。
2. 消化器疾患を中心とした主要症候を理解する。
3. 以下の検査方法の基本を理解し、主実施者又は助手として経験すること。

腹部エコー、CV 挿入、腹水・胸水穿刺、内視鏡（模型で）、ERCP・Angio・RFA・ESD

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	上部内視鏡 ESD	上部内視鏡 血管造影	上部内視鏡	勉強会* 上部内視鏡	上部内視鏡
午後	超音波内視鏡 ESD ERCP 血管造影 17:00 カンファ ア	下部内視鏡 ERCP	下部内視鏡 ERCP ラジオ波 血管造影	超音波内視鏡 下部内視鏡 ESD ERCP	下部内視鏡 ERCP

*第3木曜日：抄読会（8：00 開始）

*第4木曜日：内視鏡カンファレンス（7：30 開始）

神経内科

【研修担当責任者】

部長 橋田 秀司

【指導医】

堀内 恵美子

研修目標

神経内科の症状・疾患を鑑別し、必要に応じて専門医に適切に紹介する。また、認知症ケアサポートチーム（DST）の役割について理解する。

具体的研修目標

1. 神経疾患（脳・脊髄血管障害、認知症性疾患、神経変性疾患、脳炎・髄膜炎、てんかん、神経免疫疾患）について基本的身体診察法を実施し、記載できる。
2. 神経症候（高次機能障害、頭痛、めまい、失神けいれん発作、歩行障害、四肢のしびれ）を理解する。
3. 以下の診断法・検査法の基本を理解し、主実施者又は助手として経験する。

神経学的診察（高次機能、脳神経、運動機能、反射、感覚系、自律神経系、髄膜刺激兆候）

脳脊髄液検査

神経放射線学的検査（脳・脊髄CT、MRI）

電気生理学的検査（神経伝導検査、針筋電図、脳波）

高次脳機能検査

自律神経機能検査（起立血圧検査）

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	抄読会				筋電図
午後		（神経筋生検）	DST 回診 症例検討会 回診		

腎臓内科

【研修担当責任者】

部長 石橋 由孝

【指導医】

石橋 由孝

柳 麻衣

研修目標

腎臓疾患患者の適切な診療を行うために、腎臓疾患の病態・診断・予後、血液浄化療法に関する基礎を習得する。

具体的研修目標

1. 腎疾患を中心とした全身の主要症候を理解できる。
2. 主な腎機能検査方法の基本を理解し、評価することができる。
3. 主な酸塩基血清電解質濃度を評価できる。
4. 免疫血清学的検査（抗核抗体、免疫電気泳動など）を理解し、結果を説明することができる。
5. 腎生検の適応が判断できる。
6. 腎生検の手技の手順を述べることができる。
7. 腎生検の所見を読むことができ、治療計画を考えることができる。
8. 血液浄化療法の適応を判断できる。
9. 血液浄化療法の種類（血液透析、腹膜透析、腎移植）、方法、手順について述べることができる。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	ミーティング	ミーティング	ミーティング 抄読会	ミーティング	ミーティング
午後		カンファ			

糖尿病内分泌科

【研修担当責任者】

部長 高屋 和彦

【指導医】

高屋 和彦

研修目標

糖尿病の診断と治療方法を理解する

内分泌疾患の診断と治療方法を理解する

具体的研修目標

1. 糖尿病領域、内分泌領域の緊急状態に対応できるようになる
2. 糖尿病および生活習慣病診療の考え方をよく理解する
生活習慣病の治療薬とインスリン製剤の基本的な使い方を習得する
3. 内分泌学的な考え方をよく理解する
内分泌学的負荷試験の施行方法、内分泌学的データの読み方を習得する

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	8:00 論文抄読会	ミーティング			
午後			15:00 糖尿病教育入院カンファ（中断中） 16:00 回診		

その他：薬剤勉強会など

胃・食道外科

【研修担当責任者】

部長 永岡 栄

【指導医】

永岡 栄

風間 義弘

研修目標

食道疾患、胃疾患、脾、十二指腸・小腸疾患、ヘルニア、虫垂炎、イレウス、急性腹症等について診断、治療を経験する

具体的研修目標

1. 基本的な処置、手技を習得する
創傷処置、ドレーン管理
中心静脈留置(PICC)
2. 手術経験（外科プログラムコース）
虫垂切除術、鼠径ヘルニア根治術、リンパ節生検
3. 消化管内視鏡の経験（検査、ポリペクトミー、大腸 EMR、イレウス管、PEG、バルーン拡張）
4. 症例呈示
5. 全身管理方法について習得する
6. 周術期の輸液管理、栄養管理
7. 緩和医療について理解する

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前		7:40 病棟会（月 1 回） 8:00 抄読会・医局会（毎週）	8:00 カンファ・病棟 回診（毎週）	7:30 内視鏡カンファ（月 1 回）	
	外来 内視鏡	手術	手術	外来 内視鏡	外来 内視鏡
午後	外来 内視鏡	手術	手術	内視鏡 NST 回診	外来 内視鏡
	19:00 キャンサーボード（月 1 回）				

肝胆膵・移植外科

【研修担当責任者】

部長 橋本 拓哉

【指導医】

橋本 拓哉

研修目標

肝臓、胆道、膵臓の良性・悪性疾患の診断、治療を経験する

具体的研修目標

1. 予定手術患者の全身状態の術前評価ができる
2. 中心静脈カテーテル挿入の手技を習得する
3. 肝胆膵領域の疾患のCT画像の読影ができる
4. 肝胆膵領域の疾患のMRI・MRCPの読影ができる
5. 肝胆膵領域疾患の術前術後管理を学習する
6. ICU入室患者の管理を学習する

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	手術 (病棟)	外科医局会 肝胆膵外科カンファ	手術 (病棟)	手術 (病棟)	手術 (病棟)
午後	手術 (病棟)	病棟	手術 (病棟)	手術 (病棟)	手術 (病棟)

呼吸器外科

【研修担当責任者】

部長 古畑 善章

【指導医】

古畑 善章

柳谷 昌弘

研修目標

1. 呼吸器外科疾患に関する診断、検査、処置、治療の基本を学び、チーム医療の一員として指導医とともに診療に携わり、呼吸器外科診療を理解する
2. 一般外科医としても必要な基本的手術手技（切開、縫合等）、および創傷処置、ドレーン管理などを習得する。

具体的研修目標

1. 呼吸器疾患の診療に必要な基本的知識を述べることができる
2. 呼吸器疾患患者の病歴の聴取と記録ができる
3. 患者を診察し、視診・聴診・打診・触診により呼吸器疾患に関する病態を把握できる
4. 胸部単純X線と胸部C Tの基本的読影ができる
5. 呼吸器外科診療に必要な検査所見について基本的な理解と評価ができる
6. 術前検査結果を解釈し、手術適応を判断できる
7. 胸部悪性腫瘍（主に肺癌）の staging を実施、これに基づいた治療方針を作成できる
8. 周術期の全身管理を実施できる
9. 胸腔穿刺、胸腔ドレナージ挿入を指導医とともに実施できる
10. 呼吸器外科手術に助手として参加し、指導医の指示の下にポート挿入、肺部分切除を含む基本的手術手技を実施できる
11. 術後の創部処置を実施できる

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	手術	手術（第 1・4） 抄読会・医局会 病棟業務 VAL-MAP	手術	・呼外術前カンファ ・病棟業務 ・気管支鏡検査	・手術（第 1・3） ・病棟業務
午後	手術	・病棟業務 ・カンサーボード ・医師会合同カンファ（年 3 回）	手術	・病棟業務 ・CPC（月 1 回）	病棟業務

小児外科

【研修担当責任者】

部長 尾花 和子

【指導医】

谷 有希子

研修目標

小児外科診療に必要な基礎的知識を習得する。

具体的研修目標

1. 新生児・乳幼児患者の診察を習得する
視診・触診・聴診・問診
2. 小児外科患児の術前術後管理を習得する
輸液・抗生剤選択・胃管管理・ドレーン管理
3. 外科的基本手技を習得する
4. 小児超音波検査手技と読影を習得する
5. 小児外科疾患の各種検査の手技・読影を習得する
6. 小児外科手術の助手および術者を経験する

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	8:45 病棟カンファ 11:00 エコー検査	手術	8:45 病棟カンファ 9:15 造影検査 11:00 エコー検査	8:45 病棟カンファ 9:00 外来見学	手術
午後	14:00 新入院診察 16:00 回診	手術	16:00 回診	14:00 新入院診察 16:00 回診	手術

心臓血管外科

【研修担当責任者】

部長 小林城太郎

【指導医】

田中 慶太

鈴木 登士彦

研修目標

1. 心臓血管手術、術前の検査方法、術後の呼吸循環管理、基本的な薬剤の使用方法を理解する。
2. 心臓血管手術の助手を経験する。
3. 血管手術の執刀を経験する。

具体的研修目標

1. 循環、呼吸動態を勉強し、集中治療室において指導医とともに術後管理を行う。
2. 基本的な薬物治療を勉強する。
3. 診断、治療方針決定に必要な検査法の理解と診断法を勉強する。
IABP の挿入、中心静脈圧、スワングアンツカテーテルの挿入などを指導医とともに行う。
4. 人工心肺の仕組みを理解する。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前		手術		手術	
午後	手術 17:15循環器カ ンファレンス	手術	手術 (主に局麻)	手術 18:00小児科カ ンファレンス	手術 17:15循環器カ ンファレンス

大腸肛門外科

【研修担当責任者】

部長 佐々木 慎

【指導医】

佐々木 慎

豊島 明

研修目標

大腸肛門疾患に対する基本的な外科的臨床能力を身に付ける

具体的研修目標

1. 大腸癌、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、肛門疾患（痔核、痔瘻、直腸脱等）、急性腹症（虫垂炎、憩室炎等）を主体とする大腸肛門疾患や鼠径ヘルニア等の疾患に対して、診断から治療方針決定までのプロセスについて理解し、説明できる
2. 腹部を中心とした解剖について十分理解し、腹部 X 線、CT、MRI 等の読影ができる
3. 上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査の実施方法について理解し、所見を理解できる
4. 大腸肛門疾患や鼠径ヘルニア等の手術の内容を理解し、術者あるいは助手として務めることができる
5. 周術期管理の実際について理解し、的確に実践することができる
6. 集学的治療（放射線療法、化学療法等）、緩和ケアの実際について理解し、各科専門医あるいは他職種と良好なコミュニケーションを取りながら連携し、診療に参加できる

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	手術／病棟業務	手術／病棟業務	8:30 総回診、 病棟業務	7:30 内視鏡カンファレンス (第4) 手術／病棟業務	8:30 術前・術後 症例、病棟症例 カンファレンス 病棟業務
午後	手術／病棟業務 17:30 化学療法 症例検討 (第 1、第3) 19:00 キャン サーボード (第 4)	手術／病棟業務	病棟業務	手術／病棟業務	手術／病棟業務

乳腺外科

【研修担当責任者】

部長 増田 亮

【指導医】

増田 亮

米田 央后

研修目標

乳腺疾患に対する基本的な外科的臨床能力を身に付ける

具体的研修目標

1. 乳腺疾患（良性・悪性ともに）の基礎知識を学ぶ
2. 乳癌の診断から治療まで一連の流れを理解する
3. 乳腺診療に関係する各種検査（MMG、US、CT、MRI、FNA、CNB、MMT 等）の目的を理解し、読影ができる
4. 術式及び手術の流れ、解剖が理解できる
5. 乳腺手術における周術期管理が理解できる

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	8:30 病棟回診	8:30 病棟回診 外来	8:30 病棟回診 検査	8:30 病棟回診 外来	8:30 病棟回診 外来
午後	外来 18:00 病棟回診、術前説明	手術 18:00 病棟回診	検査／手術 15:00 術前・術後カンファ 18:00 病棟回診、術前説明 17:30 HBOCカンファ（第3）	手術 18:00 病棟回診 18:00 術後全体カンファ（第2） 18:00 術前全体カンファ（第3）	外来 18:00 病棟回診

救急科

【研修担当責任者】

部長 林 宗博

【指導医】

林 宗博

諸江 雄太

山下 智幸

研修目標

1. 適切な救急初療を行うために、基本的手技を習得する
2. 患者の病態を的確に把握し、適切に対処できる
3. 救急医療システムを理解し、救急医療チームの一員として行動できる
4. 集中治療室（EICU）で診療すべき患者、集学的な診療を要する患者を認識できる

具体的研修目標

1. 患者の病態を把握するための身体観察ができる
2. 診療に必要な患者情報を、確実に聴取できる
3. 患者の緊急度・重症度を的確に判断し、処置および検査の優先順位を決定できる
4. 頻度の高い救急疾患の初期診療を実施できる
5. 専門医への適切なコンサルテーションができる
6. 患者の受け入れや診療に際して倫理的配慮を行える
7. 患者や救急診療に従事する医療者の安全を確保できる
8. 病院前救護を含む救急医療システムを理解し、説明できる

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	8：45～ 多職種合同症例カンファレンス				
		ミニレクチャー（適宜）		ミニレクチャー（適宜）	
午後					
	17：00～ 症例カンファレンス				

初期臨床研修医に対する救急科の教育について

1 年目

目的

- 医師として求められる一般的な救急診療を適切に提供できる

行動目標

ER 診療

- PPE を確実に着脱できる
- 緊急度（蘇生を要する状態、バイタルサインの異常）の評価ができる
- 病歴聴取や診療情報提供書により、主たる問題を同定できる
- 救急診療に必要な身体診察ができる
- SOAP に沿ってカルテ記載できる
- 適切に上級医にコンサルトできる
- 病状に合わせて、各診療科にコンサルトできる
- 適切に血液培養を採取できる
- 静脈路確保を 18G で行える
- 用手気道確保とバッグマスク換気を行える
- 尿道カテーテルを挿入できる
- 胃管を挿入できる
- 直聴診を行える
- FAST を実施できる
- 大腿動静脈から採血できる
- 適切な胸骨圧迫を行える
- 除細動の適応を説明できる
- 血液型確定までの流れを説明できる
- 12 誘導心電図検査を実施できる
- 適切な検査を選択し、必要な疑い病名を適切に入力できる
- 治療を検討し、治療に必要な病名を適切に入力できる
- 皮膚縫合を行える
- コスト（創傷処理、超音波検査等）入力できる
- 救急診療に必要な採血した血液を分注できる

- 看護師の行う診療の補助を代行することができる（検査出し等）
- 造影 CT のリスクを知っている
- 造影剤投与の手順を知っている
- MRI 検査で事前に確認すべき事項を知っている
- 救急車で来院した患者を 1 人で初期対応できる
- 3 次症例の初期診療を支援できる

ICU/HCU 診療

- By-system のカルテ記載ができる
- カンファレンスで患者のプレゼンテーションができる
- 上級医の指導に従い、指示簿を入力できる
- 上級医の指導に従い、内服薬をオーダーできる
- 上級医の指導に従い、注射薬をオーダーできる
- 看護師の行う診療の補助と療養上の世話が分かる
- 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士と連携してリハビリを実施できる
- 薬剤師と連携し、疑義照会に適切に対応できる
- 栄養士と連携し、食事をオーダーできる
- 閉鎖回路で喀痰吸引ができる
- シリンジポンプを操作できる
- 輸液ポンプを操作できる
- A-line から適切に採血できる
- 血液ガス検査を実施できる
- 中心静脈穿刺の手順を説明でき、準備ができる
- DPC の入力項目が分かる
- DPC の SOFA スコアが入れられる
- DPC に沿ってサマリを記載できる
- セーフマスターを少なくとも 1 件

2 年目

目的

- 後輩指導をしながら複数の患者に並行して救急業務を行うことができる

行動目標

ER 診療

- 患者の価値観に沿った診療ができる
- ACP（人生会議）の確認ができる
- 患者に同意書に沿った丁寧な説明ができる
- 遅延なく SOAP に沿ってカルテ記載ができる
- アナフィラキシーの対応を単独で行える
- 胸骨圧迫の質を評価し助言できる
- 除細動の方法を説明できる
- 二次救命処置（換気、質の高い胸骨圧迫、除細動、アドレナリン投与）を単独で管理できる
- FAST を指導できる
- 簡便な心エコー検査を実施出来る
- 腰椎穿刺を行える
- 胸腔ドレーンを挿入できる
- ログロールできる
- 死亡確認ができる
- 異状死の届けるべきタイミングを説明できる
- RBC の保存方法を説明できる
- FFP の保存方法と融解時間を知っている
- PC の保存条件を知っている
- 過不足なく病名を入力できる
- コスト（創傷処理、超音波検査等）を漏れなく入力できる
- 虐待を疑う場合の対応を知っている
- 適切なタイミングで上級医にコンサルトできる
- 来院方法に関係なく、複数の患者の初期対応を時間を意識してマネジメントできる
- 3 次症例の初期診療を積極的に支援できる

ICU/HCU 診療

- 患者の状態を連日、詳細に評価できる
- 身体所見を連日確認している
- 上級医の指導下で A-line を確保できる
- A-line を適切に抜去できる
- 上級医の指導・監視下で中心静脈穿刺を行える
- X 線写真で CV の位置を確認できる
- CV を適切に抜去できる
- X 線写真で気管チューブの位置を確認できる
- X 線写真で胃管の位置を確認できる
- 人工呼吸器の設定ができる
- 抜管できる
- 臨床工学技士と連携し、生命維持装置の扱い方がわかる
- KCI の持続投与方法を知っている
- 適切なタイミングで抗菌薬を De-escalation できる
- 指示簿・内服薬・注射薬について、上級医に相談しながら積極的に入力できる
- カンファレンスで質の高い患者のプレゼンテーションができる
- 診療情報提供書を作成できる
- 主治医意見書の位置づけを説明できる
- 転院先（療養型病院、リハビリテーション病院、地域包括ケア等）の調整を行える
- 安全な体交を実践できる
- 急性期終末期の定義を説明できる

【研修担当責任者】

部長 柄澤 俊二

【指導医】

柄澤 俊二

浅野 哲

諏訪 潤子

研修目標

手術麻酔を通じて全身管理の基本である循環、呼吸、体液管理を習得する。

具体的研修目標

1. 術前訪問を通じ、麻酔管理上の問題点を整理する
2. 適切な麻酔計画を立て、正確に報告する技能を身に付ける
3. 全身麻酔、局所麻酔における操作、手技の流れを理解する
4. 術後呼吸管理を習得する
5. 麻酔管理上問題となる各種疾患に対し、適切な術前処置を行う
6. 麻酔管理に用いるモニターの種類と意義、特徴を理解する
7. 麻酔前投薬の意義、投与経路、投与量を説明できる
8. 気管挿管の適応を理解する
9. 硬膜外麻酔、脊髄クモ膜下麻酔の適応、禁忌を理解する
10. 輸液の種類、病態に応じた適応や投与量を説明できる
11. 各種静脈麻酔薬の適応、禁忌、投与量を説明できる
12. 吸入麻酔薬による呼吸、循環器への作用を説明できる
13. 各種麻酔法による合併症とその治療を説明できる
14. 脳圧亢進や虚血性心疾患などの病態に応じた呼吸、循環、体液管理を説明できる
15. 動脈血ガス分析値を評価し、適切な人工呼吸器の設定ができる
16. 血液電解質、血糖値を評価することができる
17. 体温管理の意義と方法について説明できる
18. 末梢静脈路を確保することができる
19. 末梢動脈にカテーテルを挿入することができる
20. 静脈血、動脈血を採血することができる
21. 気道確保し、マスクによる陽圧換気を行うことができる
22. 気管挿管を実施できる
23. 全身麻酔を行うことができる
24. 脊髄クモ膜下麻酔を行うことができる
25. 末梢神経ブロックを実施できる

- 26. 体温管理を適切に行うことができる
- 27. 胃管を挿入できる
- 28. 基本的な輸液ができる
- 29. 輸血による効果と副作用について理解し、輸血が実施できる

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	7:30 抄読会 8:00 全体カンファ 手術麻酔	8:00 全体カンファ 手術麻酔	7:45 説明会 8:00 全体カンファ 手術麻酔	8:00 全体カンファ 手術麻酔	8:00 全体カンファ 手術麻酔
午後	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔 17:00 症例検討会

【研修担当責任者】

部長 福田 倫明

【指導医】

福田 倫明

研修目標

1. 全人的医療に求められる能力として、患者とその家族の心理・社会的背景に注目し、これを把握、理解する能力を身に付ける
2. 精神医学の臨床に必要な基礎的知識と技能を習得する
3. 身体疾患に伴う精神医学的病態を把握し、適切な対応を選択できる
4. 患者への倫理観と責任を身に付ける

具体的研修目標

1. 認知症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）の事例を経験し、適切な診断・評価を行い、治療・継続支援の計画が立案できる。
2. 不安、不眠、躁・うつ、幻覚・妄想などの神経症候を評価し、これらを可及的速やかに軽減するための支援方法、薬物療法について理解し、実施できる。
3. 患者およびその家族を取り巻く心理社会的状況について理解し、適切な支援・介入の方策を立案できる。
4. 他の診療科との合同カンファレンスに参加し、診療連携の実際について学び、チーム医療の一員として自立した判断・行動ができる。
5. 救急医療における精神科の役割について理解し、自殺企図患者への心理的社会的支援の具体的方策を立案できる。
6. 精神科領域における臨床研究について学び、文献検索によって得られた知見に基づき、実際に経験した症例について、支援・治療の方策を立案できる。

	月	火	水	木	金
午前	・救急科カンファ ・精神科専門外来	・救急科カンファ ・精神科専門外来	・精神科カンファ ・精神科専門外来	・緩和ケアチーム回診 ・精神科専門外来	・救急科カンファ ・精神科専門外来
午後	・精神科リエゾンチーム回診	・精神科リエゾンチーム回診 ・認知症ケアチーム合同カンファ	・精神科リエゾンチーム回診 ・精神科リエゾンチーム事例検討会	・精神科リエゾンチーム回診	・精神科リエゾンチーム回診

最終週水曜日：研究発表

小児科

【研修担当責任者】

部長 大石芳久

【指導医】

大石 芳久

研修目標

指導医のもとで、小児科診療において頻度が高い疾患について診断治療ができる。小児救急疾患について、緊急性を判断して対応ができる。必要に応じ、専門医へ適切な紹介ができる。また、周産期医療に関わり、新生児領域の疾患について診断治療ができる。

具体的目標

1. 子どもや家族の心理状態・社会的背景に配慮し、良好な人間関係を築くことができる。
2. 入院している児のストレスに配慮することができる。
3. 子どもに不安を与えないように接することができる。
4. 子どもや養育者から診断に必要な情報（発育歴・既往歴・予防接種歴など）を的確に収集できる。
5. 年齢に応じ、適切な手技による系統的診察ができる。
6. 子どもの全身状態（動作、行動、顔色、元気さなど）を包括的に観察し、重症度を推測できる。
7. 視診により、顔貌、栄養状態、発疹、呼吸状態、チアノーゼ、脱水などを評価できる。
8. 正確な身体計測とバイタルサイン測定ができる。
9. 身体発育、性的発育、神経学的発達、生活状況の概略を評価できる。
10. 診察中、子どもや家族への声かけと配慮ができる。
11. 発育発達・心理社会的な側面から正しく把握できる。
12. 得られた情報を総合し、指導医と議論し、エビデンスに基づいた診断と問題解決ができる。
13. 必要最小限の検査を選択し、患者・家族の同意のもとに実施できる。
14. 患者の家族背景を考慮し、指導医とともに診療計画を立案できる。
15. 根拠に基づいた必要な検査を指示し、結果を解釈できる。
16. 薬剤の投与量と投与方法を決定できる。
17. 医師、看護師、薬剤師、保育士、事務職員、その他の医療職の役割を理解し、協調して医療ができる。
18. 指導医・他分野の専門医に適切なコンサルテーションができる。
19. 安全管理・医療安全の基本的考え方を理解し、安全管理の方策を身につける。
20. 病院内での子どもの事故（ベッドからの転落など）を防止できる。
21. 院内感染対策を理解し、感染予防策を実行できる。
22. 医療事故防止の基本を身につけている。
23. 教育への配慮・治療中の患者が教育の機会が損なわれないよう配慮できる。
24. 診療録の記載・問題解決志向型の診療録記載と退院要約を適切に作成できる。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
7:45-8:30	採血・処置 担当患者の把握				
8:30-9:00	カンファレンス(申し送り) 勉強会(火、水、木)				
9:00-12:00	病棟業務(診察、検査)、外来処置 等				
12:00-13:00	昼休み				
13:00-16:30	病棟業務(診察、検査)、外来処置 等 食物負荷試験(水)				
16:30-17:00	カンファレンス(申し送り)				16:00- 総回診

産婦人科

【研修担当責任者】

第三産婦人科部長 山田 学

【指導医】

笠井 靖代

山田 学

渡邊 理子

細川 さつき

有馬 香織

研修目標

1. 女性特有の疾患による救急医療を研修する
2. 妊産褥婦の医療に必要な基礎知識を学ぶ
3. 婦人科疾患の基礎知識を学ぶ

個別行動目標とその達成のための方略

指導医（常勤スタッフ 6 年目以上）の入院症例を受け持ち、外来・検査を見学する。

夜勤や休日勤務をすることも可能（義務ではない）

指導医が夜勤入りなどで不在のときは分娩・手術に立ち会う。

1. 腔鏡診・内診ができる
手術患者の診察を、麻酔導入後に上級医の立ち合いのもとで行う。
2. 妊娠の診断ができる
産科外来を見学する。
3. 異常妊娠・妊娠合併症の診断・治療法を理解できる
産科外来を見学する。産科患者を受け持ち、病歴・サマリーを記載する。
4. 正常分娩に立ち会うことができる
分娩室で分娩に立ち会い、分娩担当医の助手をつとめ、分娩記録を記載する（10 例以上）。
5. 帝王切開分娩の助手をつとめることができる
分娩手術室・中央手術室で第二助手をつとめる（3 例以上）。
6. 妊産褥婦の薬物療法ができる
5 階病棟で処方を行う。
7. 女性生殖器疾患の診断・治療法を理解できる
婦人科外来を見学する。婦人科患者を受け持ち、病歴・サマリーを記載する。
8. 更年期障害の病態を理解できる
婦人科外来を見学する。
9. 婦人科手術の助手をつとめることができる
中央手術室で婦人科手術に参加する。
10. 症例のプレゼンテーションを行う
11. 婦人科カンファレンスに参加して発表する。

週間スケジュール

産科外来：週 1-2 回

婦人科外来：週 1-2 回

分娩室：週 2-3 回

手術：週 1-2 回

病棟：毎日

指導医のスケジュールにあわせる。

勉強会・カンファレンス

月曜日

婦人科回診：毎週月曜午後 2 時 30 分 5A 病棟カンファレンス室

分娩症例検討会：毎週月曜午後 3 時 30 分 5A 病棟カンファレンス室

周産期カンファレンス：第 3 月曜午後 4 時 30 分 MF ホール

婦人科カンサーボード：第 3 以外の月曜午後 4 時 45 分 5A 病棟カンファレンス室

火曜日

産婦人科カンファレンス：毎週火曜午前 8 時 15 分 5A 病棟カンファレンス室

臨床病理カンファレンス：第 3 火曜午前 8 時 15 分 5A 病棟カンファレンス室

抄読会・説明会：毎週火曜午後 5 時 30 分 5A 病棟カンファレンス室

集合場所と時間

月・水・木・金曜日：5 階分娩室ナースステーション 午前 8 時 30 分

火曜日：5A 病棟カンファレンス室 午前 8 時 15 分

眼科

【研修担当責任者】

部長 舟木 俊成

【指導医】

舟木 俊成

研修目標

1. 眼科臨床に必要な眼の構造、生理、薬理などの基礎知識を習得する
2. 眼科診断技術および検査に関する基礎知識を習得する
3. 眼科の主要な疾患に関する知識を習得する
4. 眼科の基本的治療法について理解する

具体的研修目標

【経験する疾患】

1. 高齢化社会に対しての眼科の役割を理解する
2. 高齢化に伴う疾患について理解する
3. 主な角結膜炎の症状・病態・治療について説明できる
4. 白内障の症状・診断・治療について説明できる
5. 緑内障の症状・診断・治療について説明できる
6. 加齢性黄斑変性病態と治療について説明できる
7. 未熟児網膜症の診察を経験する
8. 屈折異常（近視・遠視・乱視）、老視について説明できる
9. 角膜移植の適応疾患を理解する

【技能】

1. 眼球および眼球付属器の解剖・構造を説明できる
2. 眼球の主要組織の機能・生理を説明できる
3. 視力検査の方法・記載方法・意味を述べることができる
4. 眼圧測定の方法・正常値・意義を説明できる
5. 細隙灯顕微鏡を操作し、主な前眼部所見を述べることができる
6. 眼底検査の方法を理解し、主な異常所見を述べることができる
7. 視野検査の方法・種類・意義・主な異常所見を述べることができる
8. 蛍光眼底検査の方法・正常所見・異常所見を述べることができる
9. 眼科治療に使われる主な点眼・眼軟膏・内服薬の種類・適応疾患・投与方法について説明できる
10. レーザー治療（網膜光凝固、虹彩光凝固、後発白内障切開術）について説明できる
11. 結膜下注射・テノン嚢下注射の方法・適応疾患について説明できる
12. 主な麻酔方法（点眼、結膜下、テノン嚢、球後など）について説明できる
13. 主な眼科手術（白内障手術、硝子体手術、緑内障手術、眼瞼手術など）の助手を務められる

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	手術	外来	手術	手術	外来
午後	外来／手術	未熟児診察 カンファレンス	外来	未熟児診察 カンファレンス	外来

緩和ケア科

【研修担当責任者】

部長 高橋 尚子

【指導医】

矢野 有紀

研修目標

がんなどの命を脅かす疾患による疼痛、呼吸苦などの身体的苦痛や、せん妄や不安などの精神的な苦痛への評価、対応を学ぶ

今後の過ごし方などの意思決定のプロセスを学ぶ

具体的研修目標

1. 患者の苦痛を評価し、原因に即した治療（薬剤以外も含む）などを検討できるようになる。
2. がんの進行、全身状態から予後予測をたて、今後の起こりうることを予測し、かつ患者・家族の気持ちに配慮しながら説明できるようになる。また、今後の希望を聞き出し、ともにゴールを設定できるようになる。
3. 全身状態の評価、予後予測・患者・家族の希望に基づき、個々にとって適切な治療を選択できるようになる。
4. 身体・精神的苦痛の緩和および意思決定支援のためにはチーム医療が重要であることを体験し、学ぶ。集学的医療チームの一員として、種々の職種と良好なコミュニケーションを保ち連携できるようになる。また情報共有のためのプレゼンテーションができるようになる。
5. 個々の症例に適した麻薬を含む苦痛緩和に必要な薬剤を、選択し使用できるようになる。
6. 円滑な地域連携ができるようになる。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前		総回診	2、4週 抄読会		総回診
午後	病棟カンファ レンス	緩和ケアチー ムカンファレ ンス	病棟カンファ レンス	病棟カンファ レンス	病棟カンファ レンス

※化学療法科との合同研修であるため、個々の希望に合わせて調整可能

年間スケジュール

緩和ケアカンファレンス：5月、7月、9月、11月、1月、3月 第3金曜 ZOOM

緩和ケア研修会（PEACE）：年2回

耳鼻咽喉科

【研修担当責任者】

部長 物部 寛子

【指導医】

物部 寛子

中西 わか子

研修目標

1. **一般目標**：耳鼻咽喉科医としての基本的臨床能力および医療人としての基本的姿勢を身につける。このために、代表的な疾患や主要症候に適切に対処できる知識、技能、診療態度および臨床問題解決能力の習得と人間性の向上に努める。
2. **行動目標**：耳鼻咽喉科疾患の診断と治療の基本的知識及び技能を習得する
側頭骨、鼻副鼻腔、咽喉頭、頸部の解剖学を理解する

具体的研修目標

経験すべき治療など

術者あるいは助手を務めることができる

耳科手術（鼓膜切開術、鼓膜チューブ挿入術、鼓室形成術など）

鼻科手術（鼻中隔矯正術、下鼻甲介切除術、内視鏡下鼻副鼻腔手術など）

口腔・咽頭・喉頭手術（口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術、舌・口腔・咽頭腫瘍摘出術、喉頭微細手術など）

頭頸部腫瘍手術（気管切開術、頸部リンパ節生検、頸部郭清術、頭頸部腫瘍摘出術など）

経験すべき検査

下記の検査を自ら実施し、その結果を解釈できる。

聴覚検査：純音聴力検査、語音聴力検査、ティンパノメトリー、自記オーディオメトリー検査、耳音響放射検査、幼児聴力検査、新生児聴覚スクリーニング検査

平衡機能検査：起立検査、頭位および頭位変換眼振検査、温度眼振検査、視運動性眼振検査、視標追跡検査、重心動揺検査

耳管機能検査

鼻アレルギー検査（鼻汁好酸球検査、皮膚テストまたは誘発テスト）

嗅覚検査（静脈性嗅覚検査、基準嗅覚検査）

鼻腔通気度検査

中耳・鼻咽腔・喉頭内視鏡検査

味覚検査（電気味覚検査またはろ紙ディスク法）

喉頭ストロボスコープ検査、音声機能検査、音響分析検査

超音波（エコー）検査（頸部、唾液腺、甲状腺）、穿刺吸引細胞診（頸部、唾液腺、甲状腺）

嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査

研修内容

専攻医は入院患者の管理を行う。

外来では初診の患者の診療を行い、診断と方針について上級医と相談する。

術前カンファランス・抄読会 木曜 17:00-18:00

放射線科とのカンファランス 1/2 か月

他科とのカンファランス 不定期

医療倫理、医療安全、感染対策に関する講習会にそれぞれ2回以上出席する。

学会または研修会に参加し、日耳鼻が定めた学会において年1回以上の発表を行う。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来	手術	外来	外来	手術
午後	小児難聴外来	手術 補聴器外来	甲状腺エコー (穿刺吸引細胞診含む) ABR, ASSR	顔面神経筋電図 検査 ENG(電気眼振 検査) 全体カンファ	手術

集中治療科

【研修担当責任者】

部長 齋藤 豊

【指導医】

齋藤 豊

研修目標

1. ICUでの重症患者管理を通じて、各種重賞病態とその治療法を理解し、経験する。
2. Progressive Patient Care (PPC) 方式におけるICUの位置付けを理解、ICU入室の適応と優先度を判断できる。
3. ICU診療における多職種連携の重要性を理解し、各職種と緊密な協力関係を気づくことができる。

具体的研修目標

1. 以下の代表的な重賞病態について理解する。
呼吸障害、循環障害、腎障害、代謝内分泌障害、血液凝固障害、重症感染症
2. 以下のICUにおける代表的な治療法を習得する。
人工呼吸、補助循環、血液浄化法、栄養管理、感染管理、早期離床・リハビリテーション
3. 以下のICUにおける基本的な手技を習得する。
静脈・動脈・中心静脈の核ライン確保、気管挿管
4. ICU入室患者の曝される様々なストレスを理解し、適切な鎮静・鎮痛をはじめとするメンタルケアを行うことができる。
5. 多職種連携における各種職種の専門性を理解した上で、これらを統合した全身ケアの視野を持つことができる。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	回診 カンファレンス	回診 カンファレンス	回診 カンファレンス	回診 カンファレンス	回診 カンファレンス
午後	多職種合同 カンファレンス	救急科合同感 染症カンファ レンス 救急科合同回 診		ICU感染症 カンファレン ス	

新生児科

【研修担当責任者】

部長 中尾 厚

【指導医】

中尾 厚

鵜川 寿子

研修目標

1. 新生児の基本的診療手技を行える
2. 正常新生児の診察ができる
3. 正期産児の初期蘇生ができる

具体的研修目標

1. 新生児の診察手順を学び、実施できる
2. 新生児の生理を理解する
バイタルサイン、呼吸循環動態について胎児期から出生後の変化、栄養、感染、黄疸
3. 新生児の異常徴候を理解する
呼吸障害（多呼吸、陥没呼吸、呻吟、鼻翼呼吸）、チアノーゼ、腹部膨満、黄疸
4. 基本的診療手技を習得する
採血、末梢血静脈血管の確保、心臓超音波検査、頭部超音波検査、腰椎穿刺
5. 基本的検査の新生児期に応じた解釈ができる
ヘマトクリット、ビリルビン、CRP、血糖、胸腹部 X 線写真、超音波検査
6. 正期産児の分娩立ち会いを体験し、初期蘇生を習得する
保温、気道確保、陽圧換気、気管挿管、心臓マッサージ
7. 新生児救急搬送を体験する
依頼元施設への迎え搬送
8. 母乳栄養の重要性を理解する

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	回診	正常新生児診察		回診	
午後	周産期合同カンファレンス (1回/月)	症例検討会	論文抄読会		

上記の予定が入っていない時間帯は病棟業務（分娩立ち会い、新生児搬送同乗を含む）に従事

整形外科

【研修担当責任者】

部長 伊藤 英也

【指導医】

伊藤 英也（骨関節整形外科）

白川 展之（骨関節整形外科）

研修目標

1. 骨・関節・筋・神経などの運動器に特有な病態を理解できる
2. 緊急を要する疾病や外傷、頻度の高い症状・病態に対する初期診療能力を身に付ける

具体的研修目標

9. 神経学的所見をとることができる
10. 神経学的所見から障害部位を特定できる
11. 四肢の所見をとることができる
12. 脊椎疾患、関節疾患に対する診断と検査を選択、指示できる
13. 骨折や脱臼、捻挫に対する固定について理解し、経験する
14. 創傷処置（縫合）ができる
15. 骨粗鬆症の管理ができる
16. 腰痛、関節痛への対応法について理解し、説明できる
17. 整形外科手術を助手として経験する
18. 周術期管理（装具、リハビリを含む）ができる
19. 整形外科医へ適切なタイミングでのコンサルテーション又は患者紹介ができる

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
	カンファレンス	抄読会	カンファレンス		リハビリ カンファレンス
手術	脊椎 AM・PM 骨・関節 AM・PM	脊椎 AM・PM 骨・関節 PM	脊椎整形 AM・ PM 骨・関節 PM	脊椎 AM・PM 骨・関節 PM	脊椎 AM・PM 骨・関節 AM・PM
外来	一般＋救急	一般＋救急	一般＋救急	一般＋救急	一般＋救急
カ ン ファ	骨・関節 カンファレンス			脊椎 カンファレンス	

脳神経外科

【研修担当責任者】

第二脳神経外科部長 入江 是明

【指導医】

入江 是明

伊地 俊介

香川賢司

研修目標

1. 脳神経外科疾患の適切な診療を行うために、脳神経外科疾患の病態・診断・予後に関する基礎を習得する。
2. 脳神経外科救急疾患の特性を学ぶ

具体的研修目標

1. 意識レベル、神経所見を理解し、説明できる
2. 良性脳腫瘍、悪性脳腫瘍、脳血管障害、先天性脳血管障害、小児の脳疾患、頭痛、てんかん、顔面けいれん、めまい等の疾患について、診断し、治療方針を説明できる
3. 脳波、聴性脳幹反応検査などの機能検査の結果について理解し、説明できる
4. CT、MRI、X線、脳血管撮影画像の読影ができる。
5. 急性期脳血管障害を診断し、救急処置の可否を判断できる。
6. 痙攣発作に対する治療法を習得し、てんかんに対する薬物治療ができる
7. 脳血管撮影検査の助手が務められる
8. 脳神経外科手術の助手が務められる
9. リハビリテーションの適応について決定できる

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	カンファレンス 手術／病棟業務	回診 手術／病棟業務	カンファレンス 病棟業務	回診 病棟業務	カンファレンス 手術／病棟業務
午後	手術／病棟業務	手術／病棟業務 脳血管撮影	リハビリテーションカンファレンス 病棟業務	脳血管内手術	手術／病棟業務 脳卒中カンファレンス（1回／月）

救急患者対応は適宜担当

泌尿器科

【研修担当責任者】

部長 石川 晃

【指導医】

石川 晃

研修目標

尿路系、男性生殖器系病変等の泌尿器科疾患の基礎知識を学ぶ

具体的研修目標

1. 泌尿・外性器の視触診所見を正しく理解し、診療録に記載することができる
2. 前立腺の触診を行うことができる
3. 一般検尿の採取法を取得し、検査所見を正しく評価できる
4. 導尿が正確にできる
5. 尿道留置カテーテルの使用法について理解し、実施できる
6. 血尿の症状・病態を理解し、病因の鑑別ができる
7. 尿道炎、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎、精巣上体炎などの尿路感染症を理解し、救急処置を実施できる
8. 尿路結石を理解し、救急処置を実施できる
9. 腎外傷、膀胱破裂、尿道損傷を診断できる
10. 泌尿器科的 X 線画像の読影ができる

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来補佐	外来補佐	手術助手	外来補佐	手術助手
午後	前立腺生検	カンファ回診	術後回診	前立腺生検	術後回診

皮膚科

【研修担当責任者】

部長 今門 純久

【指導医】

今門 純久

研修目標

皮膚疾患に対して基本的な診療ができるための皮膚科一般の知識と 技能を習得する。

具体的研修目標

1. 皮膚発疹学を習得する。

1. 発疹学について記載皮膚科学上必要な用語を熟知する。
2. 発疹の特徴、分布、配列について正確に記載できるよう習熟する。

2. 皮膚科検査法の意義が理解でき、主要な所見を指摘できる。

1. 真菌検査など日常の検査法を熟知して実施する。
2. パッチテスト、RIST, RAST などの免疫・アレルギー的検査法の意味と実施方法、判定について熟知し実施する。
3. 皮膚組織試験採取の適応、方法、注意について理解し実施できる。

3. 代表的な皮膚疾患についてその病態と治療法を理解する。

1. 湿疹皮膚炎群（アトピー性皮膚炎を含む）
2. 蕁麻疹、薬疹、紅斑症
3. 皮膚潰瘍
4. 細菌、真菌、ウイルス感染症（性行為感染症を含む）
5. 皮膚腫瘍

4. 各種の皮膚科治療法の基本的事項を理解し実施できる。

1. 抗生物質・抗菌剤全身投与の適応とその使用法について習熟する。
2. 副腎皮質ステロイド全身投与の適応、使用法、禁忌、副作用について理解し実施できる。
3. そう痒、疼痛に対する全身療法の適応を理解し実施できる。
4. 局所外用療法（単純塗布、重層法、ODT など）の適応を理解し、実施できる。
5. 副腎皮質ステロイド外用剤の種類と使い分けの基本事項を理解し、実施できる。
6. 抗真菌剤、抗生物質、保湿剤などの外用剤についてその適応と使用方法を理解する。

7. 液体窒素凍結療法の適応と手技について理解する。
8. 皮膚外科的局所麻酔法、切開法、切除法・縫合法を熟知し、せつ、感染性粉瘤などの切開排膿、母斑など皮膚小腫瘍の切除縫合術が施行できる。
9. 血管腫、毛細血管奇形に対する血素レーザー治療の基本を知る。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	初診見学	初診見学	初診見学	初診見学	初診見学
午後	褥瘡回診 (偶数週)	創傷ケア 外来	初診見学	中手オペ (偶数週)	初診見学
	オペ手伝い		オペ手伝い	局麻オペ (奇数週)	オペ手伝い

水曜夕方：写真・病理検討会

病理

【研修担当責任者】

部長 熊坂 利夫

【指導医】

熊坂 利夫

裴 有安

研修目標

日常診療で頻繁に遭遇する疾患、特に病理診断が治療の選択に必須な疾患に対し、最小限必要な病理学的診断能力（態度、技能、知識）を習得する

具体的研修目標

1. 病理診断の重要性が理解できる
2. 以下の病理学的診断方法による症例解析の重要性が理解できる
細胞診（喀痰、尿、胸水、腹水、擦過、穿刺）
生検（胃粘膜、大腸粘膜、肺、肝臓、腎臓）
内視鏡的粘膜切除、ポリペクトミー
術中迅速診断
手術検体（悪性度、深達度を明らかにし、病期（pTNM）分類、免疫染色等により治療の指針、化学療法、放射線治療等の効果判定）
病理解剖（死因の究明、臨床・画像・検査・病理のすべてにおける診断治療の妥当性の最終検証）
3. 病理組織標本（検体）の基本的な扱い方について身に付ける
4. 肉眼標本の観察法。摘出臓器を観察し、病変の形態、部位、大きさなどを客観的に記載することができる
5. 肉眼標本の切出しの仕方。病変の的確な部位を切出しできる
6. 病理解剖の基本手技を習得する
7. 顕微鏡標本の基本的な観察法を習得する
8. 主要な臓器において、基本的な病理診断が理解できる

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	生検・手術材料 切出	生検・手術材料 切出	生検・手術材料 切出	生検・手術材料 切出	生検・手術材料 切出
午後	カンファレン ス（第2：肝胆 脾、泌尿器科、 第4：消化管）	カンファレン ス（毎週呼吸器 オンコロジー 第4：産婦人 科）	カンファレン ス（不定期：腎 生検）	カンファレン ス（第2：乳腺、 第4：CPC）	抄読会・診断勉 強会

放射線科

【研修担当責任者】

放射線診断科 部長 扇 和之

【指導医】

扇 和之

西村 潤一

野中 哲生

原田 明典

研修目標

放射線医療業務に関する基本的な知識、手技技術を習得する。

具体的研修目標

放射線検査（CT、MRI、血管造影、核医学検査、単純 X 線、US など）の実際の施行法を知り、種々の疾患の 画像診断を学習する。被曝軽減に関する基本的な放射線防護も理解する。

CT 検査

各検査の適応、禁忌を理解し、指導医のもとその実際にその検査を指示、実施できる。異常所見を読影指摘し、鑑別診断を挙げる。検査による副作用や合併症を述べることができる。

- ・頭部 CT
- ・胸部 CT
- ・胸部 CT 腹部 CT、その他の CT

MRI 検査

基本的な MRI の原理、検査の実際を理解し、適切な撮像方法を指示できる。撮影された画像を読影し、異常所見を指摘し診断することができる。

- ・全身 MRI
- ・MR angiography

血管造影検査

血管造影の適応、禁忌を理解できる。異常所見を読影指摘し、鑑別診断を挙げる。

- ・頭部血管造影
- ・腹部血管造影

核医学検査

基本的核医学検査について、その適応を判断し、指示することができる。

- ・静態検査：骨シンチ、腫瘍シンチ、PET-CT、その他

・動態検査：RI アンギオグラフィー、その他

X 線診断

各検査の適応、禁忌を理解し、指導医のもとその実際にその検査を指示、実施できる。異常所見を読影指摘し、鑑別診断を挙げる。

- ・単純 X 線撮影
- ・経静脈性排泄性腎盂造影

腹部超音波検査

超音波の原理を理解し、指導医のもと読影を行う。

- ・腹部超音波検査

放射線治療

基本的核医学検査について、その適応を判断し、指示することができるとともに、その結果を分析する。

- ・放射線治療について基本的な知識を修得し、放射線治療の適応、副作用およびその対策について述べるができる。

週間スケジュール

		月	火	水	木	金
第 1 週	午前	CT	CT	CT	CT	IVR
	午後	MRI IVR カンファレンス	MRI 画像カンファレンス	MRI	MRI、単純 X 線	CT
第 2 週	午前	消化管検査	PET と核医学	MRI	IVR	CT
	午後	US 消化管カンファレンス	CT 画像カンファレンス	CT	MRI	MRI
第 3 週	午前	CT	MRI	CT	CT	CT
	午後	MRI 画像カンファレンス	MRI 画像カンファレンス	MRI、単純 X 線	MRI 画像カンファレンス	CT、単純 X 線 画像カンファレンス
第 4 週	午前	CT	CT	IVR	CT、単純 X 線	MRI
	午後	MRI 肝胆膵カンファレンス	MRI 画像カンファレンス	CT	CT 呼吸器カンファレンス	CT 画像カンファレンス

地域研修

【研修担当責任者・研修指導者】

(1) 渋谷区医師会

以下のうちいくつかのクリニックをローテート。協力クリニックは変更となる可能性あり。

内藤病院	内藤 誠二	おいかわ内科在宅クリニック	及川 武史
リーメディカルクリニック	リー 啓子	きかわだクリニック	黄川田 雅之
広尾タワークリニック	西川 文則	慶友整形外科渋谷	丸岩 博文
クリニック桜丘	山崎 隆夫	平松レディースクリニック	平松 秀子
稲垣クリニック	稲垣 稔	代々木上原こどもクリニック	高見 剛
富ヶ谷みらいクリニック	井上 荘太郎	野地眼科クリニック	野地 潤
代々木山下医院	山下 賀正	恵比寿門脇ブレストクリニック	門脇 正美
渡辺クリニック	渡辺 豊	かずえキッズクリニック	川上 一恵
望星新宿南口クリニック	高橋 俊雅	木島小児科内科耳鼻咽喉科医院	木島 太郎
南平台緒方クリニック	緒方 寿夫	けいこレディースクリニック表参道	寺師 恵子

(2) 相模原赤十字病院

西 八嗣

研修目標

地域医療の実際を経験し、患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療（在宅医療を含む）について理解し、実践する。

具体的研修目標

1. 診療所、小規模病院での一般外来を経験する
2. 地域医療における病院と診療所の連携を理解し、述べることができる。病院への患者紹介や、病院からの患者の受入を的確に行うことができる。
3. 地域包括ケアシステムを理解する
4. 在宅医療について理解する
5. 福祉施設等の役割について理解する

研修の方法

1. 2年次に実施する
2. 研修は①渋谷区医師会クリニック ②相模原赤十字病院 のいずれかを選択し実施する

【研修担当責任者・研修指導者】

国立保健医療科学院 町田 宗仁（国際協力研究部長）

研修目的

臨床現場に直結する感染症等の公衆衛生や医療制度の医療政策など、保健医療行政を学ぶ。また、希望により世界保健機関（WHO）等の国際機関における国際保健や各国の保健医療政策に影響を与えるような合意の形成プロセス、各国際機関の役割、あるいは国際保健に関わる課題に対する各国際機関の具体的な取り組みなどについて学ぶ。

具体的研修目標

（国立保健医療科学院 専門課程Ⅲ・地域保健臨床研修専攻科プログラム抜粋）

公衆衛生の概念

チーム医療と医療安全

たばこ対策

対物保健

災害医療シミュレーション

医療と IT/AI の未来を考える

医療経済

感染症について関連法規を学ぶ

地域医療構想

地域包括ケアシステム

免疫学・統計学

地域精神保健

産業精神保健

医療 ICT・遠隔医療

医療費の適正化と政策決定の実際

薬事行政とレギュラリーサイエンス

水と健康

身体活動・体力と健康

エイズ対策

研修の方法

1. 2年次に実施する（例年10月・11月の2か月間）
2. 国立保健医療科学院による選考あり
3. 海外研修への参加は任意